



連結業績ハイライト

第3四半期累計(2009年4月1日～2009年12月31日)

- 景気の回復が遅れ、デフレ傾向が強まる中、営業収入は9,237億円(前年同期比83.4%)に減少しました。
- 730億円規模の「緊急対策プラン」と300億円規模の「緊急収支改善策」は着実に成果を上げており、営業費用を前年同期より1,055億円削減しましたが、減収分を補うことができず、営業損失378億円、経常損失576億円、当四半期純損失351億円となりました。

※ 金額は表示単位未満の端数を切り捨てています。

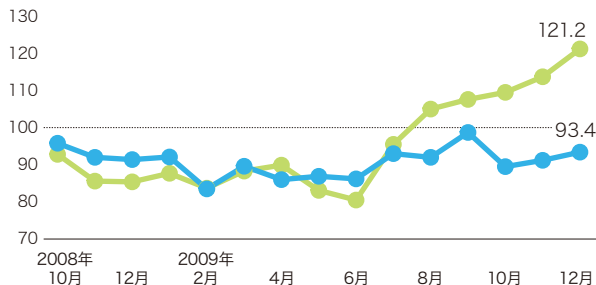
経営成績 単位:億円	前第3四半期 累計	当第3四半期 累計	増減	前年同期比 (%)
営業収入	11,074	9,237	△ 1,836	83.4
営業費用	10,670	9,615	△ 1,055	90.1
営業利益又は損失(△)	403	△ 378	△ 781	—
営業外損益	△ 175	△ 198	△ 22	—
経常利益又は損失(△)	227	△ 576	△ 803	—
特別損益	△ 32	△ 3	28	—
四半期純利益又は純損失(△)	94	△ 351	△ 446	—
EBITDA※	1,238	464	△ 774	37.5

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

旅客数の伸び率の推移(前年同月比較)

単位: %

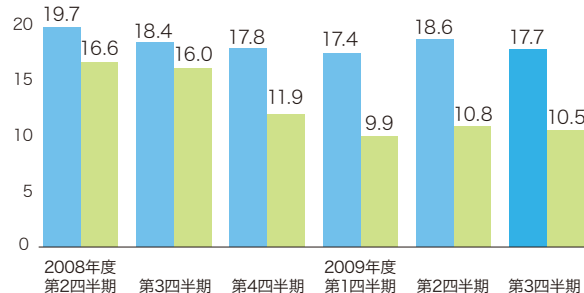
- 国際線は8月以降、前年同月を上回っており、年末からはビジネス需要も回復傾向にあります。
- 国内線は、期中弱含みで推移していましたが、本年1月以降、やや回復の兆しが見られます。



旅客キロ当たり運賃収入※の推移

単位: 円 / 旅客キロ

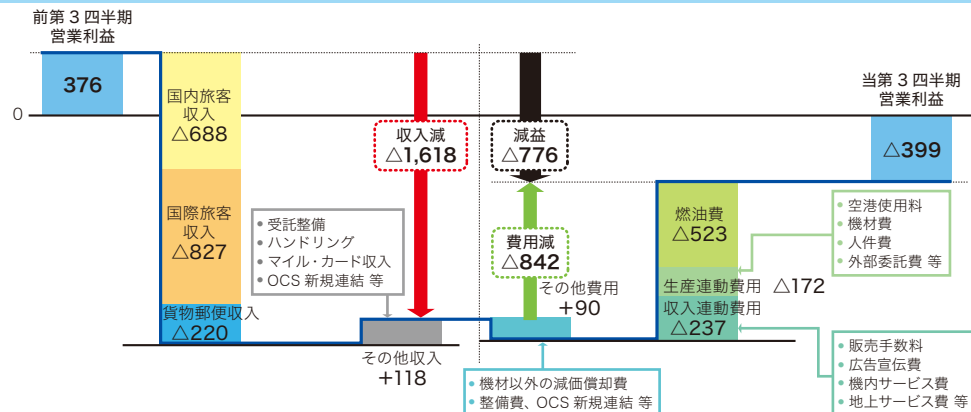
国際線の旅客キロ当たり運賃収入は、需要は回復傾向にあるものの、旅行者の低価格志向、燃油サーチャージの廃止・値下げなどで大きく低下しています。



※ 旅客キロ当たり運賃収入 = 旅客収入 ÷ (旅客数 × 運航距離(キロメートル))

航空運送事業収支の変動要因(前第3四半期と当第3四半期との9カ月累計比較)

単位: 億円



当第3四半期の航空運送事業の収入は、前年同期より1,618億円の減収となりましたが、費用を842億円削減したため、776億円の営業減益となりました。

なお、その他収入とその他費用には、新規に連結対象となった海外新聞普及株式会社(OCS)の収入と費用がそれぞれ約190億円含まれています。